

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		5,271	t-CO ₂
①を除外した温室効果ガス換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		5,271

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績		
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			%		%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)					%	%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	1949	kg-CO ₂ / 生産指数	1891	kg-CO ₂ / 生産指数	1815	kg-CO ₂ / 生産指数	1839	kg-CO ₂ / 生産指数	1761	kg-CO ₂ / 生産指数
削減率 (対 基準年度)			3.0	%	6.9	%	5.6	%	9.6	%
原単位あたりのみなし排出量					kg-CO ₂ / 生産指数	kg-CO ₂ / 生産指数	kg-CO ₂ / 生産指数			
削減率 (対 基準年度)					%	%	%			

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

ユーティリティ設備高効率化や省エネ施策の推進により、原単位あたりのCO₂排出量を削減でき目標達成に至った。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房温度28度以上、暖房温度20度以下を徹底する。 ・夏季、日中はブラインドを閉める。 ・冷凍機を時間により自動発停する。 ・中間期は冷水温度設定を上げる。 ・中間期は外気冷房を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・冷房温度28度以上、暖房温度20度以下を基準温度として運用。フィルター清掃を定期実施。 ・冷凍機を時間により自動発停させた。 ・中間期は冷水温度設定をあげ、外気冷房を行った。(外気取入の仕組みがない箇所については、外気導入ダクトを設置した) ・高効率タイプのチラーへ更新を行った ・室外機への遮熱塗装を行った
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、不使用時の消灯を徹底する。 ・機器の導入、更新時は高効率型を採用する。 ・照明LED化、不要蛍光灯の間引き、プルスイッチによる消灯を行う。 ・デマンド監視を強化し、最大需要電力を抑制する 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度までにボイラー供給先を更新し、ボイラーを撤廃する。 ・2024年度までに点灯時間の長い生産現場のLED化を完了させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み不要箇所の消灯を実施した。 ・事務所は蛍光灯へプルスイッチを設置、生産現場はスイッチ回路を変更して個別消灯を可能にした。 ・屋内蛍光灯のLED化を順次実施している。(生産現場のLED化は概ね完了) ・デマンド制御装置を導入した
省エネルギー・省資源の行動の実践・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・退社時のパソコン電源OFFを徹底する。 ・インバーターや台数制御による変容量制御ができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コンプレッサー全台に台数制御装置を導入 ・本機停止中の付帯設備OFFや昼休み中の脱臭装置OFFを実施 ・電力データの集計を行い、エネルギーロス箇所の調査を実施した ・発見されたロス箇所について、削減策を実施している(エア漏れ処置) ・契約電力引き下げを実施 ・機械チラーの台数制御を実施 ・印刷機ドライヤーの排気風量低減を実施
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底し、リサイクル化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事務所フロアの分別項目を細分化し、リサイクル化の促進を実施している ・Web会議や業務電子化によるペーパーレス推進

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

新入社員を含め従業員に対して省エネ等地球温暖化対策に関する教育実施 e-ラーニングによる環境教育の実施 本社による環境監査を受け継続的改善実施

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

エアー漏れパトロール
